

# 破碎・RPF製造活用し埋立量減少 中間処理工場新設でリサイクル貢献

## ◆ジー・エス

東京・白金に本社を持つジー・エス。昨年7月に京浜島に破碎・RPF製造などをおこなう中間処理工場を新設し、東京都中央防波堤外側処分場への埋め立て量の削減に貢献するとともに、リサイクル量の増加に成功、大きな成長を遂げている。

### “カッコいい” にこだわり 地道な努力で生き残る

青く透き通った海を泳ぐマンタや魚たちの写真を工場やオフィスをはじめ会社中に飾りたいというのはジー・エスの郷成禄代表取締役。そのマンタや魚たちの写真もスキューバダイビングが趣味の郷社長が自ら日本をはじめ世界各地で撮った写真だ。

そんな郷社長のこだわりはかっこよさ。昨年7月に完成した京浜島工場もクリーンなイメージを大切に。また、社用車をはじめ身なりや言葉使いにも気を配り、クオリティを高める努力を続けている。

「お金を稼ぐために廃棄物を集めて



温かみを感じさせる京浜島工場はストックヤードや処理施設などをすべて工場内に配置されている

運ぶだけなら誰にでもできるんです。そうではなく、世界の中心といっても良い東京で、センスの良いリサイクルプランナーとしてかっこよくありたいんです」という郷社長。そのこだわりは、仕事の中身に活かされている。

「何でも焼却して埋めればすむという時代ではありません。分別すれば資源となるものも多い。中間処理業者としてただ運ぶだけではなく、しっかりと手をかけてリサイクルしていくことが重要です。幸い、私たちジー・エスはスクラップなどを手選別でしっかりと分ける長年の経験と実績、そして技術とノウハウがあり、分別することが苦ではないんです。ルールを遵守しながら地道にそして着実に、さらに徹底的に埋立量をゼロにしていく、ゼロ・エミッションの方向性を大切にしていきたいですね。それがかっこよさでもあり、今後生き残っていく方法だと考えているんです」

### 安全、安心への配慮 資源の海外流出打破

そんなジー・エスが設立されたのは



20代の若手中心に社員は構成される

1991年4月のこと。祖父の代から続くスクラップ工場と並行する形で有限会社としてスタートを切った。

「最初は一般廃棄物や産業廃棄物の区別もわかっていませんでした。たまたま手続きに行った先が東京都の一般廃棄物」(郷社長)という手探りのスタートだったが、翌年には産業廃棄物処理業の許可も取得、着実に業績を拡大。97年に千葉県、98年には埼玉、99年には神奈川県や横浜市・川崎市の産業廃棄物処理業許可を取得、2000年には本社のある東京・白金に中間処分工場を完成するとともに都の産業廃棄物中間処分業許可、02年には建設業(とび、土工)許可を取得、要望の多かった「壊して持って行ってくれないか」というクライアントからの依頼にも対応できる体制を確立していった。

さらに、茨城・栃木・群馬県にも事業領域を拡大、04年には株式会社へと組織変更をおこない事業基盤を強化、「当社のひとり立ちのため、そして一人ひとりの社員がリサイクルプランナー



としてのモチベーションとプライドをより一層強く感じてほしい」と昨年07年には念願の自社工場を東京・京浜島に完成した。

一般廃棄物や建築廃材・粗大ゴミ等、様々な産業廃棄物を手分別するとともに、マテリアルリサイクルが困難な古紙やプラスチック類からは、直径6～60mm、長さ10～100mm、円柱状で高カロリーの固形燃料RPFを製造。製紙会社・石灰会社・鉄鋼会社などへ提供し、再資源化している。

同工場の混合廃棄物の処理能力は一日当たり13.2トン、RPFは4.8トンの製造が可能。

「リサイクルだけではなく、安心や安全性を考慮し、また、大切な資源が中国など海外に流出してしまう現状を打破したかった。資源が国内で循環する仕組みに少しでも貢献していくことができればうれしい」（郷社長）

## 次世代の地球環境を保つ

環境に配慮したストックヤードや処理施設はすべて室内。回収した廃棄物をまずは手選別し、その後、1軸式破砕機で細かく破砕。金属・非鉄金属は製

鉄原料、ガラス・陶磁器くず・石膏ボード・がれき類は再生資源、木くずは燃料チップ、タイルカーペットは粉体再生原料、ダンボール・古紙は製紙原料、ミックスペーパーなどは、再生トイレットペーパーなどの原料として協力会社へ提供、木くず・紙くず・廃プラスチック類の混合についてはジー・エスがRPFを製造する。燃え殻や汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・動植物性残さなどについても保管・積換えを行い、サーマルリサイクル。再生資源・再生重油・助燃油として再資源化を協力会社とともに推進している。

「ごみ処理が大きな注目を集め、地球規模の環境問題と見られるようになってきた。廃棄物の適正処理、そして資源の有効活用を推進するために当社がどのような貢献ができるかを考える中で、木くず・紙くず・廃プラスチック類の混合をRPF化することが当社の役割であり、次世代まで素晴らしい地球環境を保つ手段だと考えた」（郷社長）という。今後ますます重要視される資源の有効活用。同社の取り組みに注目したい。



手分別された木くずや廃プラスチックなどを専用の重機でRPF製造システムへ投入する



## ジー・エス 代表取締役 郷 成祿 氏

趣味のダイビングやアウトドアで海や自然の中に飛び込んだとき、環境問題が深刻な事態を迎えていることは肌身で感じています。

私たちの仕事はごみを減らし、資源として有効に活用することで社会的地位や信用を確立し、環境に貢献することで値段ではなくクオリティで勝負できる、素晴らしいビジネスとなります。

アーティストがその作品で何かを訴えるように、私たちは自分たちの仕事を通して社会に、そして環境に貢献していくことができます。これからも若いスタッフの感覚を大事にしながら突き進んでいきたいですね。

### 企業データ

■ジー・エス  
資本金 1000万円  
設立 平成3年4月  
所在地：本社・白金工場 東京都港区白金1丁目1番6号 営業所・京浜島工場 東京都大田区京浜島2丁目14番10号  
事業内容：産業廃棄物の収集運搬、中間処理。解体工事、一般廃棄物収集運搬、一般貨物運送事業、古物商、再生資源物取扱業など



青い海を悠々と泳ぐマンタの姿がクリーンな会社のイメージを象徴する。（撮影：郷代表取締役）